

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392500084		
法人名	株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	春日井グループホームそよ風 1階		
所在地	愛知県春日井市東野町西1-12-4		
自己評価作成日	4年 10 月 10 日	評価結果市町村受理日	令和5年5月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「共に生き共に助け合う」の理念をもとに 職員全体でその理念を共有し伝えあいながら日々のケアを行っている。家族様へもできる限りその思いを伝えていき理解していただけるように努めながら 入居者様が地域の一人として繋がりをもち生活を送ることができるように 地域との交流を継続できるように心がけている。施設での生活においても認知症であっても重度になっても人のぬくもりを感じながら笑顔があふれる時間を大切に 生活感を失うことなく生活を送ることができるように支援していく。

**※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)**

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2392500084-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2392500084-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、ホームから地域の清掃活動に参加する等、地域の方との関係が途切れないような取り組みが行われている。同様に利用者の外出についても限られた範囲での実施が続いているが、今年度に入り、感染症対策の検討を行いながら、利用者と外食を楽しむ取り組みが行われており、徐々に今までの生活に戻す取り組みが行われている。ホームでは、新たな協力医療機関との連携を深めながら、利用者の健康状態等にも合わせた支援が行われている。医療面での支援を行いながら、身体状態の重い方も生活を継続することができるように支援が行われており、利用者の看取り支援も行われている。利用者の看取りの際には、家族にもホームに来てもらう機会をつくり、最期の時まで一緒に過ごしてもらって支援が行われている。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年10月24日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「共生共存」の理念を念頭に 生活の中でされる側する側の立場ではなく 生活を共にする家族のような関係を築くことができるように努力している。	ホーム独自の理念でもある「共生共存」を職員による支援の基本に考えながら、ユニット毎に理念をつくっており、職員間での共有につなげている。また、職員一人ひとりが振り返り等を行い、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の清掃や子供会の廃品回収など、できる範囲で町内会の一員として参加している。ただコロナ禍ということもあり行事への参加は難しく入居者様の健康を第一に考えながらも今後交流の機会を増やしていきたい	感染症問題が続いていることで地域の方との交流が困難になっているが、町内会に入り地域の清掃活動に参加する等、現状で可能な交流を継続している。例年は、地域のボランティアの方との交流が行われたり、ホームの行事に町内会長の方が訪問する等の交流が行われている。	ボランティアの方の訪問等、地域の方との交流が中断している状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、こうりゅうがさいかい
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前として外部の方に施設内に入っていたことが難しい状況のため散歩やお買い物など入居者様の行動を徐々に開放して周りの方の再認知につなげていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月に運営推進会議開催していたがコロナ禍で2年ほど開催できていない。また入居者様の入れ替えに伴い参加されるご家族様の減少も考えられ面会時や入居者様におかわりがあった際にはなるべくご家族の方に連絡を行い情報の共有に努めている	会議については書面による実施が続いており、関係者に書面の配布を行いながら、ホームの現状を報告する取り組みが行われている。会議を開催する際には、複数の家族やボランティアの方の参加が得られており、定期的な交流の機会にもつながっている。	会議については、書面による実施が続いている。管理者が交代する等、諸君態勢が変更になっていることもあるため、今後に向けた会議の再開に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	入退去に伴う入居者様の状況、事故報告をふくめ実情を伝えていくことで協力関係の維持に努めている。管理者が新しくなったこともありわからないことがでた場合にはすぐに市役所に連絡して確認させていただいている	現状、市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等は限られた範囲となっているが、不明点や変更点等がある際には、関係部署と情報交換等を行う機会をつくっている。また、例年は市の介護相談員の訪問を通じた情報交換等の機会がつけられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を含む施設研修から知識を深める機会を持ち身体拘束のない施設作りを継続している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、毎月の身体拘束に関する検討等も通じながら、一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。また、身体拘束に関する定期的な職員研修も行われており、職員の振り返りや意識向上につなげる取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内で虐待に関する報告は受けていないが、馴染みの関係性の中で言葉使いなどが行き過ぎないように職員間で意識付けを行っている。今後も虐待のない安心感のある施設を維持していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社内研修にて勉強会を行なう機会をもち毎月テーマを決めて各自がその目標に向かい取組み知識を含め実践の中で学び振り返る機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約については責任者または管理者が契約時に家族の不安や疑問について説明を行い納得して手続きを行なうことが出来るよう出来る限りの対応を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の支援の中でご本人の思いを尊重し、面会時には本人様の日々の状況を報告していくことで 家族様からの要望が伺いやすいような場面を持てるよう配慮している。また入居者様に体調の変化等が生じた際にはすぐにご連絡をしてその後の対応について情報の共有にも努めている	現状、家族との交流が困難な状況であるが、例年は、運営推進会議や行事の際には多くの家族の参加が得られている。家族からの要望等については、運営法人の専門の窓口を明示する取り組みも行われている。毎月のホーム便りについては、利用者毎に作成する内容に変更している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の朝礼時に会社からの申し送り事項であったり職員からの意見や報告を聞く機会を設けている。また月に1度全体会議に会社の方針であったり運営について管理者からの説明を受け職員の意見を聞く場を設けている	毎月の職員会議が行われており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みを継続している。現状、センターと管理者が別の方であり、定期的な職員面談はセンター長により行われているが、管理者を通じた意見交換等の対応も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全体会議や申し送り時に意見や提案の把握に努め、フロアでその実現に向けていけるように努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には一定期間、トレーナーがつき指導を含め相談に乗る体制を作っている。会議時の定期的な勉強会や外部の研修へいける機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は会社内の協議会に2か月に1度現在はZoomでの参加を行っている。職員は個人々人での交流はあるものの公に交流会等を進める状況にはまだないと考えコロナ情勢をみての判断となる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に実調を行い、本人の実状を確認し本人の希望や思いを聞き取りしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前や契約時にご家族様と面談する機会をもち、不安・要望をお聞きしプランに反映させていくことで信頼関係を築いていけるように勤めている(状況の変化に合わせて面談等も行っている)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	インフォーマルな支援も視野に入れながら、現段階で必要とされるサービスを提供できるように努めている(訪問マッサージや訪問介護等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々のケアの中で1日を共に生活するものとしてその日その時間の本人の希望や思いを確認しつつケアに当たっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設入居後も連絡をとることやプラン作成時の面談を通して本人様の思いに添って生活支援が出来るように家族様にも理解をして頂くよう努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で以前のように制限なくの面会はまだまだ難しいが面会自体は再開しておりご家族様にもその旨お伝えしており徐々に面会が増加している。今後は外出も増やし入居者様のストレス緩和にも努めたい	長年にわたり疎遠になっていた方との交流が実現する等、入居前からの関係の方との関係継続にもつながっている。また、家族との外出についても、利用者の中には家族からの要望等もあり、身内の方の法事に利用者が出かける機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の現在の状況の配慮をしつつお互いが支えあい生活を楽しむ仲間であるという関係を継続できるように少人数での外出や作業なども工夫し関係作りに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	コロナ禍にあり現在は全てのボランティアを中止させていただいている状態です		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で本人様が口にする何気ない言葉や行動を情報の1つとしそれを定期的なカンファレンス時に話し合い現状と思いをどう重ねていくか検討し統一した支援を進めている	職員間で利用者を担当する取り組みが行われており、利用者の誕生日には利用者の意向等も確認しながら外出する等の支援が行われている。毎月のカンファレンスが行われており、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援への反映につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に家族やケアマネから情報提供を頂きそれをもとに出来る限り本人の思いに沿った支援が出来るように勤めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の一日の過ごし方を支援記録に残し共有していく事で本人の思いや残存能力にあった支援を行いその方に合った生活を送れるように統一した支援を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスを開催することで本人にとって適切なケアを提供できるように職員間で情報を共有しプランを作成している	介護計画については、3か月を基本に見直し、利用者の身体状態等にも合わせた検討が行われている。日常の記録については、Ipadを活用した電子記録に移行しているが、Ipadを通じて日常的に介護計画の内容を職員間で共有し、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の生活の様子や体調等支援記録に残していくことで情報の共有をし対応方法を検討できるよう勤めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々のニーズに出来る限り近づけたサービスを提供できるように支援記録に残していく、申し送りやカンファレンス時など話し合いを重ねていき柔軟な対応を心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域やボランティアなどの協力を得ながら残存能力が維持できるように協力体制を整えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医にて月に2回の定期往診や週に1度ある訪問看護にて健康管理について連携をとっている。	ホームでは、新たに別の医療機関との連携を開始しており、医療面での柔軟な支援につなげる取り組みが行われている。受診についても、家族による支援の他にもホーム職員による支援も行われている。また、訪問看護による支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師来所時に相談や情報の共有を行っている。医療面でのアドバイスを頂きながら健康不安を軽減できるように医療と介護で連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はお互いに医療機関との情報提供を行なっている。医療連携室とは緊急時以外での連携も必要と考えられるがまだ緊急時以外の情報共有には至っていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に対しては予測される段階で家族とこまめに話し合う機会をもっている。看取りを行なった生かして家族・医療など連携をもち重度化に備える	利用者の看取り支援にも柔軟な対応が行われており、最期は家族にも立ち会ってもらおう等、利用者や家族の意向に合わせた支援が行われている。利用者の段階に合わせた医療面での連携等、支援可能な内容を確認しながら、家族との話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の研修を行う事で急変時の対応についての職員への不安感の解消につなげている。災害時の訓練として緊急連絡網を回すという実践を行なうなどして連絡方法を全員が周知できるようにしていく体制は維持していく		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の災害訓練では年に1回消防職員が立ち会い年に2回消防機器の点検等を含め行なっている。災害時の備蓄も3日分は備えるようにしており定期的に会社からの補充も行われている	年2回の避難訓練を実施しており、利用者の避難経路の確認をはじめ、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。地域の方との協力関係についても、町内会長との情報交換等が行われている。ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は利用者様を人生の先輩として尊重する意識をもち接遇面では十分に配慮している。排泄や入浴の場面では羞恥心に配慮して介助を行っている。ただコロナ禍で面会や外部の方の介入が減少したため接遇面での質の低下がみられるため再認識が必要と思われる	ホームでは、職員一人ひとりが虐待に関するチェックを行っており、利用者への対応や言葉遣い等を意識し、注意喚起の機会にもつなげている。また、利用者のおしゃれに関しても外部の美容院を予約して出かける等、利用者を尊重した対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	居室担当者が中心となり入居者様の希望に沿って出来る限り実現できるように勧めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	健康管理もあり日々の日課は決まっているが業務優先にならないように体調や気分などにも可能ながぎり配慮しつつ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時や入浴後に女性の方は化粧水当を付けるなど女性行い男性の方は髭剃りなどの身だしなみを整えるような声かけをしていき更衣なども自立の方は着たい衣類を着れるよう声掛けを行い重度の状態の方もパジャマで過ごすことがないように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その方の残存能力を利用しその方にあった道具を用意したり方法を伝えるなどして食事の準備や片付けに参加していただいている	基本的なメニューを参考にしながら調理が行われているが、利用者の身体状態にも合わせた特別食等の対応も行われており、様々な状況に合わせている。また、今年度は外のレストランで食事を行う機会をつくっており、利用者の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方の状態に合わせてながらできる限りの食事形態の工夫を行っている。また食事量・水分量なども観察していき栄養分の偏りがでないように気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い夜間には義歯のお預かりし洗浄液につけている。本人・ご家族様の要望にて週に1回の訪問歯科も利用し口腔内の管理をしていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	夜間はリハビリパンツを使用して排尿の際にも不快感の軽減に繋がるよう介助を行っている。ただそれぞれの方に合わせての時間でトイレ誘導も行なっている	排泄に関する記録を電子記録の他にも排泄表にも残しており、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、日中と夜間で対応を変える等、排泄状態の維持、改善につなげている。訪問看護と連携した支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘は下剤などの薬の利用を含め健康不安や不快感の軽減に努めているが下剤だけに頼らず乳製品や漢方茶・また歩行運動などを進めていき健康的な排泄が継続できるように工夫も行なっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴は日々の入居者様の生活の流れや体調で決めている。その他アロマの香りがする入浴剤を使用したり季節の行事も取り入れ菖蒲湯やゆず湯なども行なっている	利用者が週2～3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも状況に合わせて定期的な入浴に取り組んでいる。身体状態の重い方には職員2名での支援も行われている。入浴剤の活用や季節等にも合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の体調や気分に合わせていつでも休息が取れる環境を整えている。夜間は室温や照明・音などには十分配慮して安眠につなげている。(入居者様によっては音があつたほうが安眠に繋がる方もおられる)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬は薬情を個別ファイルに閉じ副作用や効能について確認できるようにしている。新しい処方薬については経過を見ながら主治医に経過相談しその方が安心して服用できるように勤めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の暮らしの中で役割や楽しみを持って頂けるように残存能力を生かした作業を生活の中で取り入れている。またコロナも徐々に落ち着きが見られ少ずつではあるが外出レクの機会を増やしている(健康管理に十分に気を付けながら)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	現状では全ての希望を叶えることは難しいがそれぞれの方の要望にそってご家族様の協力なども得ながら出来るがぎり支援できるように進めている	利用者の外出が困難になっているが、ホームの近隣を散歩する等、現状で可能な支援が行われている。また、ホームでは、今年度に入り、感染症の状況をみながら外食の機会をつくっており、徐々に感染症問題が起きる前に戻す取り組みが行われている。	職員間で感染症に関する検討を行いながら、外出行事が再開している。今後についても可能な範囲で利用者の外出の機会が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は施設とご家族様とで基本的に行なっている。本人希望のお買い物がある際にはコロナ禍もあり今はまだ職員が代行で購入をしている状態		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の要望があれば電話の取次ぎも行なっている。毎月のお便りのほかに年賀状や暑中見舞い・残暑見舞いなど入居者様にご家族様に送る事が出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎朝の清掃を入居者様と一緒にいき清潔面は配慮している。季節感のある飾りをフロアに置き季節や生活感を感じつつ過ごせるよう配慮している	ホーム内は限られた広さとなっているが、ソファの配置を行う等、利用者が日中の時間を好みの場所で過ごすことができるような配慮が行われている。また、季節感のある飾り付けや利用者の作品を掲示する等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人の時間をもてるように居室で過ごす時間をとって頂いたりフロア内で馴染みの関係同士が楽しく過ごすことができるように家具等の配置には工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人の馴染みのある家具や家族の写真などを置いて落ち着いて過ごしていただけるように配慮している。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせながら、使い慣れた家具類や好みの物を持ち込んだり、家族の写真等を飾っている。また、居室内にクローゼットが設置されていることで、車椅子で生活している方も居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設全体はバリアフリーとなっており手すりや備え付けの家具の高さは使用しやすいように配慮されている。トイレの電気はセンサーということもあり高齢の方には時々混乱を招くという難点があるためそういった方には都度の声かけを行っている		